

○一般社団法人 日本森林学会 2015 年度第 4 回（通算第 455 回）理事会・連携学会長合同会議  
議事録

日時：2015（平成 27）年 12 月 28 日（月）13:00～17:10

場所：日林協会館 4 階 中会議室

開催者：大河内勇

出席者：会長）大河内勇，副会長）黒田慶子，中村太士，理事）正木隆，井上公基，石田清，福田健二，太田祐子，阿部恭久，竹中千里，戸田浩人，石塚和裕，船田良，伊藤哲，小島克己，監事）井出雄二，高橋正通，連携学会長）渋谷正人，酒井秀夫，松村直人，連携学会長代理）早尻正宏，寺下太郎，伊藤哲，主事）細田和男，南光一樹，小松雅史，野口麻穂子，久本洋子，松浦俊也，小坂泉，篠原慶規，花岡創，吉田智弘，事務局）稲村崇子，編集部）町田庸子，オブザーバー）佐藤肇（林野庁）

議長：大河内勇

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下の通りである。

1. 平成 28 年度日本森林学会各賞受賞者の決定

表彰委員会，JFR 編集委員会，日林誌編集委員会での選考経過と受賞候補者が佐藤理事の代理である篠原主事，福田理事，石田理事からそれぞれ報告された。日本森林学会功績賞への応募はなかったことが報告された。審議の結果，日本森林学会賞を石井弘明会員（神戸大学），日本森林学会奨励賞を飯島勇人会員（山梨県森林総合研究所），岩崎健太会員（北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場），平田令子会員（宮崎大学），南光一樹会員（森林総合研究所），日本森林学会学生奨励賞を安宅未央子会員（京都大学），池田敬会員（北海道大学），久保雄広会員（国立環境研究所），江原誠会員（九州大学）にそれぞれ授与することが決定された。また JFR 論文賞を Ayabe, Y., Minoura, T., Hijii, N. (2015), 20(1):213-221 に，日本森林学会誌論文賞を梅村光俊，金指努，杉浦佑樹，竹中千里 (2015), 97(1):44-50 にそれぞれ授与することが決定された。

2. 次期 JFR 出版契約の内容について

現契約との相違として，ページ超過料は T&F 社から著者に直接請求すること，投稿料を導入した場合の投稿料の請求方法と，学会への還元方法，還元率を，Taylor & Francis 社との契約書に盛り込むことが福田理事から提案され，承認された。

3. 森林科学の電子バックナンバー配布機関の変更にもなう予算措置について

科学技術振興機構 J-STAGE への森林科学の登録を申請中であるが，これが承認された場合，次年度より J-STAGE 掲載作業を年間約 9 万円で印刷会社に委託することが太田理事から提案され，承認された。

4. 第 127 回大会学術講演集の価格について

田中理事の代理として小松主事から，第 127 回大会学術講演集の本体価格を例年通り 5,000 円，ただし会員は半額とすることが提案され，承認された。

5. 森林学会各賞の投票方法の変更について

佐藤理事の代理として篠原主事から、学会各賞への応募者が少ない場合に募集期間を延長せざるを得ないことの対応策として、募集期間を延長することがあることを予め明示するとともに、資格投票の廃止などが提案され、表彰規則運用内規の変更案は文言を調整のうえ、改めて理事会に提案されることになった。

#### **6. 学生ポスター賞授与内規の変更について**

佐藤理事の代理として篠原主事から、大会当日の選考委員会の廃止、審査員の匿名性の廃止、発表技術評価の簡素化を骨子とするポスター賞授与内規の変更案が提案され、一部文言修正のうえ承認された。

#### **7. 第 127 回大会における学生ポスター賞選考委員会について**

佐藤理事の代理として篠原主事から、佐藤理事を委員長とする 15 名からなる選考委員会の組織が提案され、承認された。

#### **8. 理事会議事録の承認**

2015 年度第 3 回（通算 454 回）理事会（2015 年 9 月 18 日）の議事録が承認された。

#### **9. 次回理事会の開催について**

次回理事会を 4 月に開催することが承認された。

#### **報告事項：**

その他、下記の報告が行われた。

##### **1. 第 127 回大会の準備状況**

井上理事（第 127 回大会運営委員長）から、公開シンポジウム「潤いのある都市をつくる森林」や保育室の準備状況などが報告された。小島理事（プログラム編成委員長）から、発表申し込み件数は例年並みであることや、研究発表を前回の 1 日半から今回は 2 日間、口頭発表会場を 10 会場に減じてプログラムを編成中であることなどが報告された。また関連研究集会とは別枠の学会企画として、和文論文の執筆、学振特別研究員の申請方法、森林・林業分野の職業情報提供の 3 つを準備していることがそれぞれ正木理事、黒田副会長、阿部理事から報告された。

##### **2. 中等教育連携推進委員会**

中村副会長（中等教育連携推進委員長）から、第 127 回大会における高校生ポスター発表の準備状況や、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を受け、遠方からの高校生に旅費の補助を行うことが報告された。また第 126 回大会における高校生ポスター発表の全体講評が「森林科学」75 号に掲載されたこと、第 126 回大会の参加高校に大日本山林会から記念品が贈呈されたことが報告された。

##### **3. 第 128 回大会の準備状況**

伊藤理事から代理説明があり、鹿児島大学の大会運営委員会において日程や公開シンポジウムのテーマ、シンポジウムの会場は市内公共施設も選択肢として検討中であることが報告された。公開シンポジウムの開催には、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を申請する予定であることが報告された。

##### **4. 第 129 回大会の準備状況**

応用森林学会の寺下常任幹事から、関西地区として大会開催機関の内定を進めていることが報告された。

#### 5. 各連携学会からの報告

各連携学会の会長または会長代理から、役員体制、総会・大会の開催、刊行事業、表彰制度、会員数の動向、財政状況などの報告があった。表彰制度をもつ学会が多いこと、大会発表を掲載している学会と投稿制の学会では刊行物の掲載論文数に差があることなどが分かった。また、関連して正木理事から、学術大会の開催順番や学術大会運営規則に定められた手順、科研費（研究成果公開促進費）の発案順番についての確認があった。

#### 6. 日林誌編集担当からの報告

石田理事から日林誌の編集状況が報告された。投稿論文のリジェクトが増え、審査期間も長期化する傾向があり、第127回大会での学会企画「和文論文の執筆」は継続的な開催を期待するという発言があった。

#### 7. JFR 編集担当からの報告

福田理事から、JFRの20巻5号および6号の刊行、今後の2件の特集企画（モミ、放射能）が予定されていること、大久保達弘会員（宇都宮大学）が2016年1月から編集委員に就任すること、が報告された。また競争入札の結果を踏まえた JFR 編集担当、総務担当、会計担当および学会事務局による審議の結果、2017年1月からの出版契約先を Taylor & Francis 社に決定し、契約書の取り交わしに向け検討を進めていることが報告された。これにより年間100万円程度の出版費用の節減が期待できること、Springer に著作権があるバックナンバーは引き続き Springer からダウンロードできること、投稿・審査システムはこれまでと同じであることが説明された。また科研費「研究成果公開促進費（国際情報発信強化B）」に「森林科学分野の世界トップジャーナルを目指すための総説・特集のオープンアクセス化」を取り組み内容として応募したことが報告された。

#### 8. 森林科学編集担当からの報告

太田理事から、森林科学75～76号の編集刊行状況が報告された。また2015年12月をもって藤田曜編集委員（自然環境研究センター）と長島啓子編集委員（京都府立大学）が退任し、2016年1月から山浦悠一会員（森林総合研究所）と上谷浩一会員（愛媛大学）が編集委員に就任することが報告された。

#### 9. 木材学会連携担当からの報告

船田理事から、第66回日本木材学会大会が2016年3月27～29日に名古屋大学で開催される予定であることが報告された。日本森林学会大会と日程が重なってしまったが、招待状の交換は例年通り行いたいとの意向が示された。

#### 10. 林業遺産委員会からの報告

伊藤理事（林業遺産選定委員長）から、「森林科学」のシリーズ林業遺産紀行で、75号に「旧小曾山林学校にかかわる林業教育資料ならびに演習林」掲載したこと、76号で「全国緑化事業発祥の地」の掲載を予定していること、また27年度の林業遺産選定スケジュールが報告された。また今後の運営体制について複数の試案が示され、一部委員の過剰な努力に依存せずに、来期に向けて、学

会全体として持続可能な運営体制を構築していく必要性が指摘された。

#### **11. 学協会、社会連携担当からの報告**

黒田副会長（社会連携委員長）から、森林・林業基本計画の変更にあたっての懇談会に、正木理事と牧野眞一会員（森林総合研究所）が出席したこと、防災学術連携体に当学会として入会し、防災連携委員として坪山良夫会員と大丸裕武会員（いずれも森林総合研究所）の2氏を推薦したこと、28年度日本農学会シンポジウムで正木理事が講演すること、ウッドデザインサポート連絡会に登録し、石塚理事が担当することになったこと、が報告された。また12月24日の防災学術連携体準備会について大河内会長から報告があった。

#### **12. 総務担当からの報告**

正木理事から、会員数の動向、関東森林学会の発案により当学会として科研（研究成果公开发表B）に応募したこと、2016年定時総会にあわせたシンポジウムを企画中であること、が報告された。

#### **13. 選挙管理委員会からの報告**

正木理事（選挙管理委員長）から、11月30日に投票が締め切られた代議員選挙の結果が報告された。投票率は40.7%で、過去2回より10ポイント以上改善した。女性代議員の割合は26.0%で前回よりも20ポイント減少し、前々回並みとなった。電子投票システムの導入により、選挙費用の節減と選挙事務の合理化が図られたこと、電子投票システムは次年度の表彰関係の投票にも使用する予定であることが報告された。代議員選挙に引き続き、代議員選出理事・監事の互選投票を、電子投票システムを利用して1月15日投票〆切で実施中であることが報告された。

#### **14. ウェブサイト編集担当からの報告**

南光主事から、ウェブサイトの更新、閲覧状況について報告があった。全体としてウェブサイトの閲覧数は増加傾向にあり、学会メールマガジンを経由した個別ページの閲覧も多く、メルマガの有効性が確認できること、日本以外ではロシア、EU、ドイツ、中国、ウクライナからのアクセスが多いことが報告された。

#### **15. 会計担当からの報告**

田中理事の代理として小松主事から、現在会計担当では消費税の外税表示化に対応するため、規則および内規の見直し作業を進めており、関連して大会学術講演集価格の明示、収入支出内規の別表（価格表）の表記変更、ウェブサイトへの掲載の必要性などが報告された。

#### **16. 企画・広報担当からの報告**

阿部理事から、メールマガジン第65～67号を発行したこと、第127回大会における学会企画と「職業研究会」を企画していること、第128回大会運営委員会の計画に基づき、国土緑化推進機構に公開シンポジウムの助成を申請する予定であることが報告された。

#### **17. 表彰担当からの報告**

佐藤理事の代理として篠原主事から、第127回大会の学生ポスター賞への応募状況、当学会から農学進歩賞に推薦した会員は受賞には至らなかったこと、農学賞には応募がなく当学会からの推薦は見送ったこと、第127回大会における各賞受賞者講演会では、学会賞、奨励賞に加え、学生奨励

賞の受賞者にも講演を依頼することが報告された。

#### **18. 男女共同参画担当からの報告**

竹中理事から、男女共同参画学協会連絡会第13回シンポジウム「国際的な視点から見た男女共同参画の推進」が10月17日千葉大学で開催され、吉田主事が出席し、ポスター発表「森林学会における男女共同参画への取り組み（男女共同参画の実現からダイバーシティの推進へ）」を行ったことが報告された。第14期男女共同参画学協会連絡会が11月1日に発足し、幹事学会は日本生化学会になったことが報告された。11月29日に名古屋大学豊田講堂シンポジオンにて「『木づかい』産業における男女共同参画推進による地域活性化—中部地域をモデルケースとしたワークショップ—」を木材学会と共同主催し、一般参加者81名、学会関係者および登壇者26名と盛会であったことが報告された。

#### **19. JABEE担当からの報告**

戸田理事から、現在JABEEで認定審査を行っているのは3件であることが紹介された。

#### **20. 国際交流担当からの報告**

松本理事の代理として正木理事から説明があり、「大会のお知らせ」第2回、第3回、第4回の英語版をウェブページに掲載したことや、公募セッションとして国際的問題を扱うテーマの申請を関係する会員に呼びかけ「T6: Network building and information sharing for better tropical forest conservation and utilization」が採択されたこと、韓国森林学会との交流を進め、2017年大会において統一テーマによる企画シンポジウムの設定を検討していること、台湾の関係学会への呼びかけを進める意向であることが報告された。

**議事録作成者：**正木隆，細田和男